

平成 18 年 1 月

試験研究業務月報



モデル実験の実施状況

農薬ドリフト調査モデル実験の実施

農薬を使用する際、周辺ほ場の農作物などに飛散（ドリフト）して汚染しないよう注意する必要があります。

本年 5 月より残留農薬基準がポジティブリスト方式になり、著しく規制が強化されるため、ドリフト防止対策が一層重要な課題となります。

そこで、生産者が現場でドリフト状況をわかりやすく体感し、対策に役立ててもらうため、現地説明会が予定されています。

その予備試験として、当所ほ場で野菜、チャーレ及び感水紙をモニターとし、マグネシウム塩を農薬に見立てた液剤散布時のドリフト調査のモデル実験を実施しました。風速 5 m / s の強風条件下では、20 m 以上のドリフトが観測されました。

農業総合研究所